



## 2019年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2019年5月14日

上場会社名 株式会社イメージワン 上場取引所 東  
 コード番号 2667 URL <http://www.imageone.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 新井 智  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理部長 (氏名) 野村 真一 (TEL) 03-6233-3410  
 四半期報告書提出予定日 2019年5月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2019年9月期第2四半期の業績 (2018年10月1日～2019年3月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年9月期第2四半期	733	—	△61	—	△65	—	△352	—
2018年9月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2019年9月期第2四半期	△53.41		—					
2018年9月期第2四半期	—		—					

(注) 当社は、2018年9月期第2四半期は連結業績を開示しておりましたが、前第3四半期より非連結での業績を開示しております。そのため2018年9月期第2四半期の実績及び対前年同四半期増減については記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年9月期第2四半期	1,659	1,306	78.7
2018年9月期	2,195	1,659	75.5

(参考) 自己資本 2019年9月期第2四半期 1,305百万円 2018年9月期 1,658百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2019年9月期	—	0.00	—	—	—
2019年9月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2019年9月期の業績予想 (2018年10月1日～2019年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,700	2.8	100	150.0	75	368.8	△215	—	△32.54

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2019年9月期2Q	6,681,100株	2018年9月期	6,681,100株
------------	------------	----------	------------

② 期末自己株式数

2019年9月期2Q	74,500株	2018年9月期	74,500株
------------	---------	----------	---------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

2019年9月期2Q	6,606,600株	2018年9月期2Q	5,473,743株
------------	------------	------------	------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（日付の表示方法の変更）

「2019年9月期 第2四半期決算短信 [日本基準] (非連結)」より、日付の表示を和暦から西暦に変更しております。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において、当社が判断したものであります。なお、当社は前年第3四半期会計期間より四半期財務諸表を作成しており、前年第2四半期は個別の経営成績を開示しておりませんが、参考として前年同四半期の個別の経営成績との比較分析を記載しております。

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、中国経済やIT関連需要の低迷に加え、人手不足や原油価格の反発により悪化しております。今後の先行きに関しても、中国経済やIT関連需要の減速は当面継続することと、人手不足の深刻化のため不透明感が増しております。

当社を取り巻く事業環境といたしましては、主要分野であるヘルスケア領域において、政府の成長戦略が掲げる新しい社会「Society5.0」の実現に向けた戦略分野の筆頭に「健康・医療・介護」が掲げられ、ICTを活用した医療サービス具体化への期待が高まってきております。

また、GEOソリューション事業分野において、国土交通省は、土木測量分野等の生産性を飛躍的に高める目的で「i-Construction」を推進し、やはりICTが戦略の中心に置かれておりますが、とくにUAV（小型無人航空機）に大きな役割を担わせる戦略となっております。

一方、本日別途公表しました「関係会社株式の減損処理による特別損失の計上に関するお知らせ」のとおり、当社は、2018年5月以降、インターネット予約・検索サイトを中心としたウェブ・サービス事業を、光通信グループと共同運営してきた株式会社エンパワープレミアム（以下、「エンパワープレミアム社」といいます。）への投資事業と位置づけ、事業推進を支援して参りました。当社の持分法適用関係会社であるエンパワープレミアム社の株式について、累積赤字等の影響により実質価額が低下したことから、監査法人とも協議した結果「金融商品に関する会計基準」に基づき減損処理を行い、関係会社株式評価損273百万円を特別損失に計上することとなりました。引き続き、投資事業の一環として支援して参ります。

これらの結果、当第2四半期累計期間における当社の業績は、売上高733百万円（前年同期比4.3%減）、営業損失61百万円（前年同期は1百万円の損失）、経常損失65百万円（同7百万円の損失）、四半期純損失352百万円（同11百万円の損失）となりました。

セグメント別の概況は以下のとおりです。

#### ヘルスケアソリューション事業

ヘルスケアソリューション事業の当第2四半期累計期間は、売上高656百万円（前年同期比4.9%減）、セグメント利益67百万円（同19.6%減）となりました。

PACS（医療画像保管・配信・表示システム）は、これまで取り組んできた営業強化策により、VNA（Vender Neutral Archive）としての製品価値が市場で認知されつつあり、モダリティメーカーや医療情報システムメーカーとの協業を通じた成果が出てきておりますが、「医療画像システム商品」の価格競争は継続した加速傾向にあり、当セグメントの売上高、セグメント利益は減収減益となりました。

#### GEOソリューション事業

GEOソリューション事業の当第2四半期累計期間は、売上高76百万円（前年同期比1.1%増）、セグメント利益4百万円（同59.9%減）となりました。

Pix4Dmapper（UAV撮影画像等の自動オルソモザイク&3D処理ソフトウェア）は、国内のUAV運用の増加を背景に販売量は着実に前期より成長加速しており、昨年度から中期的な販売増を目指した契約代理店網の組成に注力したことなどにより、売上高は前期より着実に成長しております。しかし、契約代理店網を活用した営業活動や販売促進のための広告展開などにより前年同期と比較し販売管理費が先行し、セグメント利益は減益となりました。

また、当第3四半期に入り、当社は新たな事業として、太陽光発電事業とクラウド型オーダーリング電子カルテ事業を開始しました。太陽光発電に関しては、クリーンな環境エネルギー社会の創造を目指し、収益基盤を早期確立するためにも、安定収益を見込むことが出来る再生可能エネルギー事業への取組みとして、太陽光発電の開発事業および売電事業に参入いたしました。

一方、クラウド型オーダーリング電子カルテ事業に関しましては、サーバー型システムと比較し、大幅な低コスト化を実現し、かつ病院業務の省力化および患者様へのサービス提供の短縮化が可能となり、また当社の主力商品であるPACS（医療画像保管・配信・表示システム）等のソフトウェアに連携させることで、病院の利便性が向上すること等のシナジー効果も見込まれることから、このたび本事業に参入いたしました。

## （２）財政状態に関する説明

### （資産）

当第2四半期会計期間末における流動資産は、1,384百万円(前事業年度末比15.8%減)となりました。これは、現金及び預金が33百万円増加し、受取手形及び売掛金が283百万円減少したこと等によります。

固定資産は、275百万円(同50.1%減)となりました。これは、無形固定資産のソフトウェアが10百万円減少し、その他が5百万円増加し、投資その他の資産の関係会社株式が273百万円減少したこと等によります。

この結果、当第2四半期会計期間末における総資産は、1,659百万円(同24.4%減)となりました。

### （負債）

当第2四半期会計期間末における流動負債は、238百万円(前事業年度末比41.0%減)となりました。これは、買掛金が142百万円減少したこと等によります。

固定負債は、114百万円(同13.3%減)となりました。これは、長期借入金が17百万円減少したこと等によります。

この結果、当第2四半期会計期間末における負債合計は、353百万円(同34.1%減)となりました。

### （純資産）

当第2四半期会計期間末における純資産合計は、1,306百万円(前事業年度末比21.3%減)となりました。これは、利益剰余金が352百万円減少したこと等によります。

## （３）業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年9月期（通期）の業績予想につきましては、2019年3月22日付「業績予想の修正に関するお知らせ」にて公表いたしました業績予想を、以下のとおり修正いたしました。詳細につきましては、2019年5月14日付で公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2019年9月期 通期個別業績予想の修正（2018年10月1日～2019年9月30日）（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益 (円 銭)
前回発表予想 (A)	1,700	100	75	58	8.78
今回修正予想 (B)	1,700	100	75	△215	△32.54
増減額 (B-A)	—	—	—	△273	
増減率	—	—	—	—	
(参考) 前期実績 (2018年9月期)	1,653	40	16	8	1.44

なお、業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年9月30日)	当第2四半期会計期間 (2019年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	879,439	912,660
受取手形及び売掛金	720,667	437,568
商品	12,820	0
仕掛品	11,420	13,974
貯蔵品	500	770
その他	20,471	19,489
貸倒引当金	△2,166	△147
流動資産合計	1,643,154	1,384,315
固定資産		
有形固定資産	39,468	34,716
無形固定資産		
ソフトウェア	28,815	18,254
その他	41,866	47,516
無形固定資産合計	70,682	65,770
投資その他の資産		
関係会社株式	399,000	125,701
その他	47,321	55,266
貸倒引当金	△4,080	△6,000
投資その他の資産合計	442,241	174,968
固定資産合計	552,392	275,455
資産合計	2,195,546	1,659,770
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	263,765	121,468
1年内償還予定の社債	7,700	—
1年内返済予定の長期借入金	34,776	34,776
未払法人税等	17,864	9,471
製品保証引当金	10,947	7,722
その他	68,527	64,865
流動負債合計	403,579	238,304
固定負債		
長期借入金	129,289	111,901
退職給付引当金	3,088	3,085
その他	277	—
固定負債合計	132,655	114,986
負債合計	536,235	353,291

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年9月30日)	当第2四半期会計期間 (2019年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,700,536	1,700,536
資本剰余金	843,534	843,534
利益剰余金	△773,438	△1,126,271
自己株式	△111,949	△111,949
株主資本合計	1,658,681	1,305,849
新株予約権	630	630
純資産合計	1,659,311	1,306,479
負債純資産合計	2,195,546	1,659,770

## (2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 (自2018年10月1日 至2019年3月31日)
売上高	733,076
売上原価	525,822
売上総利益	207,254
販売費及び一般管理費	
役員報酬	23,900
給料手当及び賞与	91,482
退職給付費用	2,166
法定福利費	14,175
旅費交通費及び通信費	20,324
減価償却費	5,779
地代家賃	20,982
支払報酬	36,424
貸倒引当金繰入額	△99
その他	53,985
販売費及び一般管理費合計	269,120
営業損失(△)	△61,865
営業外収益	
受取利息	12
受取配当金	150
為替差益	330
受取手数料	1,023
その他	212
営業外収益合計	1,729
営業外費用	
支払利息	1,325
社債利息	25
支払手数料	4,411
営業外費用合計	5,762
経常損失(△)	△65,899
特別損失	
事業譲渡損	10,894
関係会社株式評価損	273,298
固定資産除却損	0
特別損失合計	284,193
税引前四半期純損失(△)	△350,092
法人税、住民税及び事業税	2,740
法人税等合計	2,740
四半期純損失(△)	△352,832



## (3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 当第2四半期累計期間(自2018年10月1日至2019年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期 損益計算書計上額 (注)2
	ヘルスケアソリューション事業	GEOソリューション事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	656,630	76,445	733,076	—	733,076
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	656,630	76,445	733,076	—	733,076
セグメント利益又は損失(△)	67,495	4,127	71,622	△133,488	△61,865

(注)1 調整額に記載されているセグメント損失には各報告セグメントに配分していない全社費用133,488千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

2 セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。